



北アフリカ地域ニュース

モロッコ：対アルジェリア関係

(4月2日付オージョルデュイ・ル・マロック紙)

2日付オージョルデュイ・ル・マロック紙は、メデルチ・アルジェリア外相が、モロッコとアルジェリア関係改善に関するアラブ諸国による仲介を拒否したと報じている。

1. メデルチ外相は、アルジェリア日刊紙「Al-Khabar」紙のインタビューの中で、モロッコとアルジェリア間の紛争に関するアラブ諸国によるあらゆる仲介を拒否すると述べている。同外相によれば、両国は正常な外交関係を有している以上仲介者は必要ないという。
2. 同外相の発言は、正しくもあり、間違いでもある。国際関係の慣行においては、外交関係が維持されている限り、第三者による仲介が正当化されることはないという点で同外相の発言は正しい。モロッコ・アルジェリア関係についていえば、両国において双方の大使館が開いており、大使もおかれている。
3. しかし、メデルチ外相は、この外交チャンネルが正常に機能し、これらを通してあらゆる問題の解決が可能であるかのように信じ込ませようとしている点において間違っている。確かにラバトにアルジェリア大使館はあるが、関係者によると同大使館は政治問題に関して一切のコメントが禁じられているという。
4. かつてベルケビール駐モロッコ・アルジェリア大使（当時）と協議をしようとしたあるモロッコ高官は、大使ほどの地位にいる者であっても政治問題について一切の協議を禁じられていることが分かった。同大使は、この不自由なポストに疲れ果て、結局健康を害してしまった。
5. 外交チャンネルは存在しても、アルジェリア側は物事を進展させるための裁量の余地を有していない。決定権は、モロッコとの関係が改善することに利害を見出さない者達の手にある。メデルチ外相自身もこれに関しては決定権はないのである。